

産む

あいさつ

みなさんが人と会ったとき、どんなあいさつするか、
つぎの空白に書いてください。

聖書に出てくる「あいさつ」は、普通相手の平安（シヤローム）を祈る言葉です。しかし、マリアさまのエ

リサベトへのあいさつは、長い苦しみから解放された
女性に対する祝福の言葉が含まれています。

子供を産む

マリアさまの訪問を受けたエリサベトは、子供を産
めなくて長いあいだ苦しんでいました。イスラエルの
歴史の中でも、多くの女性たちが、子供を産めなくて
周りから白い目で見られていました。

イスラエル民族にとって子供を産むことには二つ
の意義がありました。一つは、「産めよ、増えよ、地に
満ちよ」（創世記 1:28）と言う、天地創造の時の創造主

の命令に答えることです。

もう一つは、「主はアブラハムを外に連れ出して言

われた。『天を仰いで、星を数えることができるなら、

数えてみるがよい』。そして言われた。『あなたの子孫

はこのようになる』(創世記 15:5)という神の約束ど

おり、子孫を無数に増加させることです。

このように、子供を産めないことは神の計画に反す

ることであり、罪悪と考えられていました。その為に、

子供を産めない女性は恥ずかしい気持ちで生活しな

ければなりませんでした。

しかし、知恵の書には「子がなくても、徳のある方

がまさる」(4:2)と書かれており、子供を産むことだけ

が祝福のしるしでないことが伝えられています。

また、マタイによる福音書では「天の国のために

結婚しない者もいる」(19:12)と伝えられています。

